

会 報

兵 小 長

第 158 号

令和4年7月8日
兵 庫 県
小 学 校 長 会

― 原点回歸 ―

「兵庫は一つ」を合言葉に
ともにがんばりましょう

会 長 亘 進 司



令和二年度の明石市、令和三年度の姫路市と二年続けて対面式での兵小長総会・研修会の開催ができませんでした。この度、関係者の皆様のご協力により、神戸文化ホール大ホールにて無事、令和四年度兵小長総会・研修会を開催することができました。かつては、神戸文化ホール中ホールで行ってまいりましたが、感染症対策を万全にするため、大ホールをお借りすることができ、より安全に、ゆとりをもって開催することができました。すべての方に感謝申し上げます。今まで当たり前で行われてきた対面式の研修会は、書面やオンラインでは味わえない臨場感があり、その熱や内容が、グッと入ると感じます。社会情勢等から可能

であるなら、今後も十分な準備をした上で、様々な研修に取り組んでまいりたいと思います。

兵小長では、「兵小長のあり方検討委員会」を立ち上げここ数年かけて検討を重ねてきました。「兵庫は一つ」の理念のもと、兵庫の多様性を生かした活動を推進することや持続可能で創造的な兵小長の組織・あり方を追求するといったことです。今回の令和四年度兵小長総会・研修会では、あり方検討委員会での新たな方向性を出したものを初めて実践することができました。

①午後開催。前日準備弁当業務なし。
②研修は従来の講師講話ではなく、各地区長による、「地区発表（地区の現状と課題及び特色ある取組等）」「人材育成に関するパネルディスカッション」各支部長からいただいたご意見を一部紹介しますと、「講師の講話も大変勉強になります。校長の生の声を聴かせていただき、大変参考になりました。また、パネルディスカッション、とても身近な内容であるとともに、同じ職にある者としての発言に感銘を受けました。次年度も本スタイルの継承

をお願いいたします。」など、好評を多くいただきました。時間配分等も含め、さらに工夫をし、継続できればと考えています。

さて、現在の若手教員の声を聴いていると「厳しい・苦しい」様子を感じることが多くあります。しかし、私たちの職は将来の宝である子どもを育成する「夢職」です。教員になりたくて目指したこの職です。地道に続けていくとプライスレスなやりがいを感じる時もあります。ぜひともその原点に立ち返り、若手もベテランも「本来の楽しさ・やりがい」を感じられるよう、兵小長一丸となって知恵を出し合い、工夫を凝らして取り組んでいきたいと思えます。

「生きる喜びと夢をもち未来を切り拓く子どもの育成」をテーマに、これまで培ってきた兵小長の強固な団結力を活かし、「兵庫は一つ」を合言葉に、ともにがんばってまいりたいと思えます。

(神戸市立山の手小学校長)



子どもたちの笑顔のために

令和三年度会長

池田 豊樹

新型コロナウイルス感染症拡大により、令和二年三月に臨時休校になりました。あれから二年以上も、マスクの着用や消毒、感染防止を徹底した上で、学校運営が続ききました。制限が多い中での教育活動ですが、子どもたちの笑顔を見ると、今日も頑張って仕事をするとと思えました。

さて、中教審の諮問「次期教育振興基本計画（令和五年度～九年度）策定について」の概要を見ますと、「超スマート社会（Society 5.0）」と「ウェルビーイング」の二つのキーワードが出てきます。第三期教育振興基本計画で示されたSociety 5.0をバージョンアップし、「デジタル」と「リアル」の最適な組合せの観点からコロナ後の教育や学習のあり方を検討していくことになるようです。また、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもある「ウェルビーイング」が実現されるように制度等のあり方を考えていくようです。急速に進歩する科学技術が、日本に住む子どもたち、そして、世界の子どもたちの幸せにつながるようになると思いますが、先行きが不透明な状況が続きますが、子どもたちの笑顔（幸せ）のために、会員同士の情報の共有や関係機関との連携により、よりよい教育活動を引き続き進めていただければと思っております。
(前神戸市立丸山ひばり小学校長)

「つながり」を大切に

副会長 宮脇直代

兵庫県小学校長会の今年度の活動方針が四月二十二日の代表者会で承認され、本格的な活動が始まりました。

五月十二日には、神戸文化ホールにて兵庫県小学校長会総会・研修会を開催することができました。参集して行う総会・研修会は実に三年ぶりのことでした。さらにこの大会は、初めての午後開催ということで、その内容も一新し、コンパクトでありながら兵庫について改めて知ることができ、自分ごととして捉えることができる大会であったと思います。

コロナ禍で、総会・研修会、研究会が中止や誌上発表になり、会員同士が顔を合わせる機会も減り一年以上が過ぎました。働き方改革が叫ばれる中、諸先輩方のご尽力で、兵小長のあり方も変わってまいりました。しかし、変わらず大切なのは、「つながり」です。昨年度、経営委員長として、会員の皆様のご協力のもと、「経営紀要」を作成した際、心強かったのは、やはり「つながり」でした。つながることで情報や課題が共有できます。自分自身の考えを深めることもできます。「兵庫は一つ」。会員相互の情報交換や連携が、個人としても、兵小長全体としても大きな支えとなります。「つながり」は力です。会員同士が支え合い、課題を共有し、さらにつながりを深めてまいりたいと思っています。

(西宮市立段上小学校長)

多様性を大きな力に

副会長 白川智喜

本年度、兵小長の副会長を拝命いたしました。微力ではありますが、兵庫の教育の前進に尽力したいと思っております。

さて、最近「三年ぶり」という言葉をよく使います。心からの嬉しさと新しい時代への希望を込めて。先日は三年ぶりの兵小長総会・研修会を開催し、多くの仲間と出会い、力と勇気をいただきました。

その場においても、改めて兵庫の多様性を実感しました。風土も気候も歴史も文化も異なる多様な地域が一つの県をつくりあげています。「兵庫は日本の縮図」と言われる所以です。多様性こそが兵庫の特徴であり、魅力です。しかし、未来を創造する子どもたちの育成であったり、コロナへの対応であったり、平和を愛し誰もが傷つくことなく、一人ひとりの人権が大切にされる社会の創造など、校長としての願いやとりまく課題は同じでしょう。

このような時代だからこそ「兵庫は一つ」のスローガンの重要さを確認するとともに、「兵庫は一つ」を実現するのは、兵小長に集い、同じ方向を向いて連携する私たちの「思い」であることも再認識しました。それこそが兵庫の力の源ではないでしょうか。

これからも、志高く、力を携え、未来を見据え、様々な困難に立ち向かっていきましょう。兵庫は一つ。

(西脇市立楠丘小学校長)

ひょうご五国をつなぐ

副会長 池上朗

兵小長の本部役員として、二年目を迎えることとなりました。昨年度は人給調査等で会員の皆様には大変お世話になりました。本年度は副会長として、微力ながら兵小長の活動充実に向け、頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度もコロナ禍でのスタートとなりました。私の勤務校のめざす児童像は「正しく、強く、しなやかな軸を持つ城北っ子」です。これからの不鮮明な時代を生き抜く子どもたちには、レジリエンスが不可欠だと考えるからです。強風に晒された時、固く弱い木は、すぐにぼきと折れてしまいます。だからといって、ゴムのようになぐにやぐにやで軸がなければ意味がありません。何らかの困難に対峙した折にこそ、正しく、強く、しなやかな軸が必要だと考えます。これは、教職員にもいえることだと思います。

総会・研修会でも話をさせていただきました。言や文化、自然・社会環境は大きく異なります。当然のことながら、教育環境は多種多様です。だからこそ、的確な判断と勇敢な決断による意思決定をしなければならぬ校長同士が、「兵庫は一つ」の理念のもと、情報交換し、意見交流を行いながら研修を深め、進むべきと考えます。ひょうご五国をつなぎ、共に頑張ります。

(姫路市立城北小学校長)

良い出会いに

副会長 森 広樹

五月十二日、三年ぶりとなる兵小長総会・研修会が対面形式で開催されました。参加して感じたことは、オンラインよりも対面で話し合うことの重要性です。インターネットが当たり前となった現代は、昔とは比べ物にならないほど、たくさんの人と出会い、つながることが容易になりました。しかし、その出会いやつながりを育てるといふ感覚が薄くなっているとも思います。

「出会い」を「良い出会い」に変え、「強いつながり」にするのに他人任せでは無理があります。自分自身が苦労をして、出会いを育てることが必要だと思っております。

コロナ禍で、校内や校外のつながりが希薄になったということを耳にします。今後の教員組織に危惧を抱く声もありません。だからこそ、今、校長が一人苦労して、出会いを育てていくことが求められていると思っております。

まだ先が十分に見通せない状況だからこそ、各地区・各支部で、確かなつながりを構築していきましょう。そのつながりの集合体として兵小長があります。

今こそ、県下七四七名の小学校長が、「兵庫は一つ」の理念のもと、志を一つにして、各小学校・各支部の発展に精進していきましょう。兵小長の一員として、育てる力、つながる力を発揮していけたらと思います。

(神戸市立西須磨小学校長)

全連小島根大会

三年ぶりの参集大会にむけて

庶務部長 横 谷 義 秀

第七十四回全国連合小学校長会（以下全連小）研究協議会は、本年十月十三日（木）・十四日（金）の両日、島根県松江市で、三年ぶりとなる参集大会として開催されることが予定されています。

全連小研究協議会は、新学習指導要領全面実施となった令和二年度の京都大会から、研究主題を「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として、その実現を目指して取組を進めてきました。

今年度は、以下の五つの研究領域のもと、十三の分科会に分かれ研究協議が行われます。

- 一 学校経営（経営ビジョン、組織・運営、評価・改善）
 - 二 教育課程（知性・創造性、豊かな人間性、健やかな体）
 - 三 指導・育成（研究・研修、リーダー育成）
 - 四 危機管理（学校安全、危機対応）
 - 五 教育課題（社会形成能力、自立と共生、社会との連携・協働）
- 開催地である島根は、出雲大社、安来節、隠岐世界ジオパーク、世界遺産の石見銀山等、豊かな自然、歴史、伝統、文化に恵まれた魅力ある地域です。島根ではこれまで長く、これらの教

育資源（ひと・もの・こと）を活用したふるさと教育を推進してきました。子どもたちが地域の良さを実感する体験活動や、自らが地域の課題を発見し、仲間や地域の人々と関わり合いながら課題解決に向けて活動することにより、周囲の人々や生まれ育った地域への愛着と誇りとともに自己存在感、自己肯定感を育んできました。さらにそれらを学びの原点として、地域社会や日本の将来、世界の未来を創造する心豊かな人を育成することを目指しています。それらを踏まえ、今回の全連小島根大会の副主題を「ふるさとを学びの原点に主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成」としています。

この五月十二日に三年ぶりとなる兵小長総会・研修会が神戸文化ホールで県内校長が一堂に会し開催されました。「兵庫は一つ」と校長同士の絆が深まったように感じます。全連小研究協議会も参集しての開催が予定されており、熱い議論が期待され、「子どもたちの未来のための教育」に向けて新たなスタートになると確信しています。

大会参加者の皆様が、島根県をはじめ他都道府県先進的な取組や小学校教育の方向性を各地区に広めていただき、五年先、十年先を見据えて、「生きる力」を育む学校運営がさらに推進されていくことを願っています。
(神戸市立千鳥が丘小学校長)

経営委員会の活動について

経営委員長 俵 原 正 仁

学校の管理・経営に関することを研修する上で、大きな役割を果たすのが本委員会です。教育課題の克服、学校運営の充実に資する校長会として、本年度も、「学校の管理・経営に関すること」「教育上必要な研究・調査に関すること」として「関係機関等との連絡・提携に関すること」に取り組みしていきます。第一回の経営委員会では、以下の活動目標・具体的目標が承認されました。

【経営委員会の活動目標】

- 一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、教育諸課題の解決に向けた実践的研究を推進し、創意工夫した教育活動及び学校経営の実践交流（研修・情報交流）を通して、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。
- 二 学習指導要領の趣旨を踏まえて、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組み、小学校教育の充実に努める。
- 三 確かな学力の定着を図るとともに、豊かな心・健やかな体を育て、教育課程全体を通じて「生きる力」の育成に努める。
- 四 家庭・地域社会及び関係機関との連携を一層密にし、安全・安心な教育環境づくりに努める。

【具体的目標】
一 第七三回兵庫県小学校長会研究大会（播磨東大会）を意義ある研究協議の場とする。
①全連小研究主題を受けて、「夢をもち 未来を創る 心しなやかな子ども の育成」を研究主題として研究を進める。
②今後の学校経営に生かせるよう、研究大会の成果や課題をまとめ、「経営

紀要第五三集」を発行する。
二 第七十四回全連小研究大会（島根大会）への参加。近小協（和歌山大会）への参加。
本委員会において、特に重要な柱になるのが、第七三回兵庫県小学校長会研究大会（播磨東大会）です。現在、本研究大会の実施に向けて、播磨東地区が中心となつて、計画を進めているところですが、昨年度より、研究大会を東西隔年で実施するようになりましたが、対面で研究会を開催するのは、本年度が初めてとなります。十月十九日（水）の日程で、高砂市文化会館、高砂市文化センター、高砂市ユーアイ帆つとセンターなどを会場として、以下の八つの分科会において、研究討議を進めていく予定です。

- 【八分科会・研究領域】
 - ①学校経営 ②教育課程 ③現職教育
 - ④生徒指導 ⑤人権教育 ⑥健康教育
 - ⑦特別支援教育 ⑧教育課題
- 播磨東地区、中播磨地区、西播磨地区、但馬地区の校長先生につきましては、ご参加の方のほど、よろしくお願ひいたします。

【経営委員会の組織】

副会長	宮 脇 直 代 (阪 神)
事務局次長	林 隆 浩 (阪 神)
委員長	俵 原 正 仁 (阪 神)
副委員長	作 靖 幸 (淡 路)
本部委員	牧 野 友 則 (神 戸)
	羽 瀬 克 彦 (阪 神)
	本 玉 義 人 (播 磨 東)
	三 谷 礼 子 (中 播 磨)
	奥 村 敏 昭 (西 播 磨)
	小 倉 畑 祐 貴 (但 馬)
	柳 川 瀬 武 彦 (丹 波)
	岡 知 史 (淡 路)

支部委員 四十六支部から各一名
(芦屋市立山手小学校長)

人事給与委員会の活動について

人給委員長 井上敏雄

二年間にわたるコロナ禍の中、学校は、感染拡大防止に向けた様々な制限や新たな生活様式に合った教育活動を余儀なくされています。そして、教職員の職務も今まで以上に多様化、複雑化しています。このような状況であるからこそ、教職員が生き生きと教育活動を推進し、持続可能で働きたいのである教育現場にしていけることが、今、求められていると強く感じます。人給委員会では、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、以下の活動に取り組んでまいります。

【人給委員会の活動目標】

- 一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、学校運営組織の充実強化を期し、教職員定数・学級編制基準の改善を図るための調査研究活動に努める。
- 二 調査研究活動によって兵庫県と神戸市の人事給与等の実態を把握し、「学校教育の水準の維持向上のため」の義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法」の堅持と職責に見合う処遇の改善に向けた取組の推進等、課題の解決に努めるとともに、全連小・近小協の活動に協力する。
- 三 人事給与に関する研修会を実施し、人事給与に関する諸事項の周知を図り、教職員の意識改革、意欲向上に努める。

【具体的目標】

- 一 兵小長関係
 - ア主幹教諭や加配教職員、再任用教職員の配置状況、へき地校の実態等の調査を行い、兵小長活動に調査結果を反映させる。
 - イ教職員人事給与と制度の現状と今後の課題についての研修会を実施する。
- 二 近小協関係
 - ア近畿各府県と人事給与等に関する資料を交換し、各種情報の把握に努める。
 - イ校長と教頭の年齢・経験年数、給与と制度等の実態調査を行い「調査研究第六十一集」の編集に協力する。
- 三 全連小関係
 - ア他府県と教育諸条件整備等に関する資料を交換し、各種情報の把握に努める。
 - イ全連小の諸調査に協力する。

【人給委員会の組織】

- 副会長 池上朗 (中播磨)
- 委員長 井上敏雄 (中播磨)
- 副委員長 山本高司 (阪神)
- 庶務 友定和貴 (中播磨)
- 吉森道保 (神戸)
- 前田貫次 (阪神)
- 古家達徳 (播磨東)
- 岸野竜治 (西播磨)
- 中田斉 (但馬)
- 松笠勝也 (丹波)
- 清水晃弥 (淡路)
- 支部委員 四十六支部から各一名 (姫路市立飾磨小学校長)

調査広報委員会の活動について

調査委員長 梶川修 二

「Aにすべきか？Bにすべきか？」コロナ禍では状況が複雑化し、前例主義では正解が導き出せない場面が増えました。各校長先生におかれましては、「最後は自分が責任をとる」覚悟で自律的な意思決定をされたのではないのでしょうか。

調査委員会では、それぞれの校長先生が意思決定をするための情報をお届けできればと考えます。

特に本誌「兵小長」は各地区の校長先生の理念、教育観、アイデア等を掲載させていただき予定です。経路依存から脱却し、チャレンジングな試みを行う校長先生を応援いたします。

「兵庫は一つ」の理念の下「生きる喜びと夢をもち未来を切り拓く子ども」の育成」の活動方針を推進し、以下の調査広報活動に全力で取り組みます。

【調査広報委員会の活動方針】

- 一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、直面する教育上の諸問題についての調査活動を一学期の早い時期に実施する。さらに、必要が生じた場合はこれに加えて随時調査を行い、実践的な研究活動を推進する。
- 二 兵小長の目標達成に必要な会報・資料等による情報の提供や、ホームページ等による広報活動を推進し、会員相互の連携強化を図るとともに、

活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

【具体的目標】

兵小長関係

- ①県及び市町教育委員会への要望事項をもとに、会員の実態把握に関するアンケート調査を行う。その結果を県教育委員会との教育懇談会準備委員会に提供し、会員の要望を反映するように努める。
- ②会報「兵小長」(一五八号・一五九号・一六〇号)を編集発行する。
- ③兵小長ホームページの更新・充実を本部事務局と連携して行う。
- ④各地区・支部における会員の声や教育に関する課題等を、アンケート調査によって収集し、分析し、発信することにより、会員の交流を図る。
- ⑤転学児童に関する情報交換を正確かつ迅速に行う。

【調査広報委員会の組織】

- 副会長 白川智喜 (播磨東)
- 委員長 梶川修二 (播磨東)
- 副委員長 岡本潔政 (但馬)
- 広報部長 霧嶋敦志 (神戸)
- 調査部長 西川賢次 (西播磨)
- HP担当 山下昌裕 (阪神)
- 本部委員 大田直樹 (播磨東)
- 三木達也 (中播磨)
- 堀香織 (丹波)
- 山田高嗣 (淡路)
- 支部委員 四十六支部から各一名 (高砂市立米田西小学校長)